

講義科目名称： 感覚と認識

科目コード： 50950

英文科目名称： Sensation and Cognition

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1・2年後期	1・2年	2	選択
担当教員			
本多 明生			
添付ファイル			

講義概要	人間が自らを取り巻く環境をどのように知覚しているのかについて学ぶ。具体的には、はじめに、感覚知覚心理学の基礎的な知識を習得する。その後、受講者自らが国際学術誌に掲載された学術論文を読解する経験を通じて、感覚知覚心理学研究の現在に関する学びを深め、最新の研究動向に関する知見を得る。		
授業計画	1	はじめに ガイダンス 準備学習： ・シラバスを読むこと ・教科書1第1章を読むこと	
	2	感覚知覚心理学の研究法 (1) 実験法 準備学習： ・教科書1第2章と第3章を読むこと ・プレゼンテーション、ディスカッションの準備 課題： ・教科書1第2章と第3章のプレゼンテーションとディスカッション (AL①と②と⑤)	
	3	感覚知覚心理学の研究法 (2) 統計的分析と研究倫理 準備学習： ・教科書1第10章と第11章を読むこと ・プレゼンテーション、ディスカッションの準備 課題： ・教科書1第10章と第11章のプレゼンテーションとディスカッション (AL①と②と⑤)	
	4	感覚知覚心理学 (1) 感覚知覚能力の発達 準備学習： ・教科書2第3章を読むこと ・プレゼンテーション、ディスカッションの準備 課題： ・第3章のプレゼンテーションとディスカッション (AL①と②と⑤)	
	5	感覚知覚心理学 (2) 嗅覚 準備学習： ・教科書2第4章を読むこと ・プレゼンテーション、ディスカッションの準備 課題： ・第4章のプレゼンテーションとディスカッション (AL①と②と⑤)	
	6	感覚知覚心理学 (3) 知覚の体制化 準備学習： ・教科書2第5章を読むこと ・プレゼンテーション、ディスカッションの準備 課題： ・第5章のプレゼンテーションとディスカッション (AL①と②と⑤)	
	7	感覚知覚心理学 (4) 潜在的知覚 準備学習： ・教科書2第7章を読むこと ・プレゼンテーション、ディスカッションの準備 課題： ・第7章のプレゼンテーションとディスカッション (AL①と②と⑤)	
	8	感覚知覚心理学 (5) 聴覚 準備学習： ・教科書2第8章を読むこと ・プレゼンテーション、ディスカッションの準備 課題： ・第8章のプレゼンテーションとディスカッション (AL①と②と⑤)	
	9	感覚知覚心理学 (6) クロスモーダル知覚 準備学習： ・教科書2第9章を読むこと ・プレゼンテーション、ディスカッションの準備 課題： ・第9章のプレゼンテーションとディスカッション (AL①と②と⑤)	

	10 感覚知覚心理研究の現在 (1) 文献検索演習 準備学習: ・教科書1第12章を読むこと ・関心がある事柄に関するキーワードをまとめる。 課題 ・文献検索演習 (AL①と②と③と④) 11 感覚知覚心理研究の現在 (2) 文献読解演習 (1) 準備学習: ・プレゼンテーション, ディスカッションの準備 課題: ・論文のプレゼンテーションとディスカッション (AL①と②と③と④と⑤) 12 感覚知覚心理研究の現在 (3) 文献読解演習 (2) 準備学習: ・プレゼンテーション, ディスカッションの準備 課題: ・論文のプレゼンテーションとディスカッション (AL①と②と③と④と⑤) 13 感覚知覚心理研究の現在 (4) 文献読解演習 (3) 準備学習: ・プレゼンテーション, ディスカッションの準備 課題: ・論文のプレゼンテーションとディスカッション (AL①と②と③と④と⑤) 14 感覚知覚心理研究の現在 (5) 文献読解演習 (4) 準備学習: ・プレゼンテーション, ディスカッションの準備 課題: ・論文のプレゼンテーションとディスカッション (AL①と②と③と④と⑤) 15 感覚知覚心理研究の現在 (6) 文献読解演習 (5) 準備学習: ・プレゼンテーション, ディスカッションの準備 課題: ・論文のプレゼンテーションとディスカッション (AL①と②と③と④と⑤)
授業形態	講義, 文献購読, 討論, 演習。 アクティブラーニング: ①14回, ②14回, ③5回, ④5回, ⑤14回, ⑥0回
達成目標	(1) 感覚知覚心理学の基本的な事柄を説明することができる。(基礎) (2) 感覚知覚心理学の研究動向を説明することができる。(標準) (3) 感覚知覚心理学に関する国際学術誌に掲載された学術論文を読解できる。(標準) (4) 感覚知覚心理学の学術論文の知見を整理してその内容について議論することができる。(応用)
評価方法・フィードバック	成績は, 平常点 (60%), 課題点 (40%), で評価する。平常点は授業への受講態度をもとに評価する (15回×4点=60点 (%))。課題点はプレゼンテーションとディスカッションに対して総合的に評価する (40点 (%))。プレゼンテーションとディスカッションはその都度コメントによるフィードバックを行う。
評価基準	秀 (1~4) : 100~90, 優 (1~3) : 89~80, 良 (1~2) : 79~70, 可 (1) : 69~60, 不可 : 59以下 ただし, カッコ内は達成目標の項目を示す
教科書・参考書	教科書1: 「心理学研究法 (ライブラリ心理学の杜)」, 本多明生・山本浩輔・柴田理瑛・北村美穂 (共著), サイエンス社, ISBN-10: 4781915396 教科書2: 「スタンダード感覚知覚心理学 (ライブラリスタンダード心理学)」, 綾部早穂・熊田孝恒 (編集), サイエンス社, ISBN-10: 4781913326 参考書1: 「認知心理学 重要研究集 (1) 視覚認知」, 行場次朗 (編集), 誠信書房, ISBN-10: 4414323932 参考書2: 「認知心理学演習 視覚と記憶—基礎・理論編 (1)」, 薬師神 玲子 (著), 甲村 美帆 (著), 石口 彰 (監修), オーム社, ISBN-10: 4274211177
履修条件	心理学に関する授業を履修済であることが望ましい。
履修上の注意	(1) この授業では教科書を輪読する。受講者は, 担当する章をまとめて, その内容をプレゼンテーションする。その内容についてディスカッションを行う。授業の質を高めるために, 受講者には積極的な参加を期待する。 (2) 第1回目の授業のときにガイダンスを行うので, 受講者は出席すること。 (3) 国際学術誌の文献読解演習を行うことから, 一般的な大学院生が最低でも保有すると思われる程度の英語力は求める。
準備学習と課題の内容	(1) 心理学に関する基礎的な知識が求められる。事前に教科書と参考書を読むこと (5時間以上)。 (2) プレゼンテーションとディスカッションの準備を行う際は, 単純に情報をまとめるのではなく, 補足説明が必要な部分については調べてくること (15時間以上)。
ディプロマポリシーとの関連割合 (必須)	知識・理解:20%, 思考・判断:20%, 関心・意欲:20%, 態度:20%, 技能・表現:20%